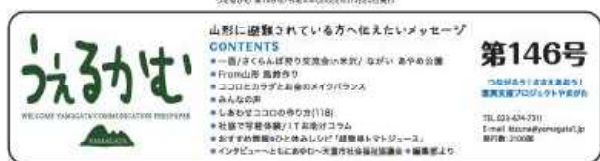


NPO 市民団体と学生との交流会 第3弾

避難者情報誌『うえるかむ』最近の取材メモから

～被災地は今、避難者の暮らし～



ゲスト：結城健司さん

復興ボランティア支援センターやまがた

左：『うえるかむ』の報道記事／右：編集作業の様子

(山形市松山三丁目 / <http://kizuna.yamagata1.jp/>)

7月7日(金)5コマ目(16時20分～17時50分)

人文社会科学部 **103教室** (予約不要 / 参加無料)

『うえるかむ』146号(2022年7月)

2011年の東日本大震災では山形県には一時期1万人を超す方々が避難されてきました。慣れない土地で暮らす避難者の方々へ生活情報をお届けし、震災後の近況などを伝える目的で2011年8月、情報誌『うえるかむ』が創刊されました。以来、県内に避難された全世帯に毎月1回届けられています。一方、被災から12年を経て被災地での復興活動は一段落し、各地に伝承施設が建てられるなど、次世代への“語り継ぎ”が今後のテーマの一つになっています。

今回は『うえるかむ』の編集・発行作業を担当されている「復興ボランティア支援センターやまがた」の結城健司さんをお招きして、最近の取材活動をもとに、被災地の現状や避難者の動向などをお話いただきます。関心のある方は是非おいでください。

なお本交流会は人文社会科学部の講義「公共政策・地域課題実践演習A2」の一環としておこなうものですが、未履修の方、他学部の学生、教員の方も大歓迎です。